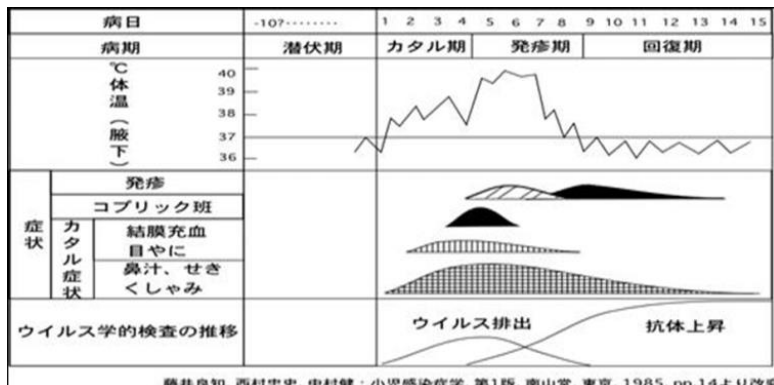




## 麻疹について

2024年2月24日にUAE(アラブ首長国連邦)から関西空港に到着したエティハド航空便に麻疹発症者(大阪在住の男性、ワクチン未接種)が搭乗していたことから、その後関西地方を中心に20名近い麻疹発症者が確認されています。ICTニュースで麻疹を取り上げるのは、2019年以来5年ぶりとなりますが、現在の状況を見ると、2024年はこれからも麻疹の患者発生、場合によっては地域的な流行等が見られることが予想されますので、思い出していただくためにも以下に麻疹についての説明文を記載します。

麻疹は麻疹ウイルス(Paramyxovirus科Morbillivirus属)によって引き起こされる感染症であり、**空気感染(飛沫核感染)**、飛沫感染、接触感染と様々な感染経路を示し、その**感染力は極めて強い**といわれています。麻疹に対して免疫を持たない者が感染した場合、典型的な臨床経過としては①10~12日間の**潜伏期**を経て発症し、②**カタル期**(2~4日間)、③**発疹期**(3~5日間)、④**回復期**へと至ります(図参照)。



藤井良知, 西村忠史, 中村健: 小児感染症学, 第1版, 南山堂, 東京, 1985, pp.14より改変

図. 麻疹の臨床経過

麻疹は未だに効果的な治療法はなく、一過性に強い免疫機能抑制状態を生じるため、麻疹ウイルスそのものによるだけではなく、合併した別の細菌やウイルス等による感染症が重症化する可能性もあります。麻疹肺炎は比較的多い合併症で、麻疹脳炎とともに二大死亡原因といわれています。さらに罹患後平均7年の期間を経て発症する亜急性硬化性全脳炎(subacute sclerosing panencephalitis: SSPE)などの重篤な合併症もあります。**唯一の有効な予防法はワクチンの接種**によって麻疹に対する免疫を獲得することであり、2回のワクチン接種により、麻疹の発症のリスクを最小限に抑えることが期待できます。

最後に現在の麻疹関連ワクチンである麻疹・風疹混合ワクチン(MRワクチン)と麻疹ワクチンについて記述します。現在MRワクチンは3社が、麻疹ワクチンは1社が製造販売していますが、ある1社のメーカー側の事情により、2024年1月下旬以降は麻疹関連ワクチンの流通はギリギリの状態が続いていました。このような状況下で、今回の麻疹の集団感染事例が発生したことにより、麻疹関連ワクチン接種の需要が増加し、一部の地域では枯渇する事態となっています。麻疹が本格的に流行する場合は、流行の中心は0歳児、1歳児となります。麻疹関連ワクチンの逼迫が更に進んで、1歳児に対する麻疹定期接種の第1期に穴があく事態になってしまうと、麻疹の流行は本格化し、乳幼児での重症例や場合によっては死亡例が出てしまいかねません。従って、**麻疹関連ワクチン接種についての最優先事項は、1歳児に対して遅滞なく速やかに接種を行うこととなります。**



(感染管理室 安井 良則)

## TDMと採血のポイント



**治療薬物モニタリング(TDM:therapeutic drug monitoring)**とは、血中薬物濃度の治療域が狭い薬物や中毒症状を引き起こしやすい薬物(VCM, TEIC等)に対して濃度測定することで、**患者個々に最適な用法用量を設計**することです。TDMを行う際には、**血中濃度測定のための採血(主にトラフ値)**が必要となります。TDMを正確に行うために、正しいタイミングでの採血をお願いします！

(感染管理室 松本 芳樹)

トラフ値とは

- 反復投与した時の定常状態における最低血中濃度
- =反復投与後の投与**“直前”**が採血ポイント
- (投与前30分以内には採血!!)

ピーク値とは

- 臨床効果が最大となる時の血中濃度
- =トラフ測定後の投与**“開始から60分後”**が採血ポイント

TDM対象	採血点	採血時期
バンコマイシン(VCM)	トラフ値	投与 <b>直前</b> (投与前30分以内)
ティコプラニン(TEIC)	トラフ値	投与 <b>直前</b> (投与前30分以内)
アミカシン(AMK) ゲンタマイシン(GM)	トラフ値 + ピーク値	投与 <b>直前</b> + 投与 <b>開始60分後</b>